



令和6年度 推進状況報告書



令和7年6月

緑区地域ケアプラザ 緑区役所 緑区社会福祉協議会

第4期緑区地域福祉保健計画 「みどりのわ・ささえ愛プラン」 推進状況報告書

活用の仕方



第4期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、各地区の特性を踏まえた「地区別計画」、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が地域と協働し取り組む「区域計画」で構成されています。

地域の課題解決に向け、区民・事業者・行政が協働して計画を推進していますが、その概要を年度毎に「推進状況報告書」としてまとめ、冊子を発行しています。

1 計画の概要を知りたい！

- 「第1章 計画の概要」をご参照ください
緑区の地域福祉保健計画の内容、特徴などを紹介しています。

2 自分の住んでいる地域の取組を知りたい！

- 「第2章 地区別計画」をご参照ください
区内11地区それぞれの取組などをまとめています。

3 緑区全体の取組や推進状況について知りたい！

- 「第3章 区域計画」をご参照ください
「地区別計画」における各地区共通の課題に対応する「重点項目A」と、区域での課題に対応する「重点取組B」の主な取組などを紹介しています。

4 他にどんな情報が載っていますか？

- プラン講演会の報告や地域ケアプラザの一覧を載せています
みどりのわ・ささえ愛プラン講演会の様子や、福祉や保健に関する身近な相談窓口「地域ケアプラザ」の一覧を掲載しています。

令和6年度 推進状況報告書

目次



第1章 計画の概要

1	地域福祉保健計画とは	1
2	第4期緑区地域福祉保健計画について	1

第2章 地区別計画

1	地区別計画とは	3
2	令和6年度地区別計画の推進について	5
	東本郷地区	7
	鴨居地区	9
	竹山地区	11
	白山地区	13
	新治中部地区	15
	三保地区	17
	山下地区	19
	新治西部地区	21
	十日市場ヒルタウン地区	23
	霧が丘地区	25
	長津田地区	27

第3章 区域計画

1	区域計画の推進について	29
2	各重点項目の振返り	31
3	参考指標について	36
4	みどりのわ・ささえ愛プラン講演会（第43回緑区社会福祉大会第2部）	38

（表紙中面）推進状況報告書 活用の仕方
（裏表紙中面）参考・緑区内の地域ケアプラザ

第1章 計画の概要

1 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、誰もが身近な地域で安心して暮らせるまちをつくるため、地域の福祉保健を推進するための基本理念や課題を明らかにし、課題解決に向け、市民・事業者・行政が協働で取り組む計画で、社会福祉法第107条に基づきます。横浜市には、市全体の計画である市地域福祉保健計画と、区ごとに策定する区地域福祉保健計画があります。

また、地域福祉の推進を目指し、地域住民・福祉保健等の関係団体や事業者等が地域で主体的に進めていく計画として、社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画があります。

それぞれの計画は相互に補完・連携し、役割分担をしていくものであることから、横浜市では、わかりやすい計画となるよう策定のプロセスを共有し、整合性のとれた一つの計画として一体的に策定しています。これにより、行政や市民、地域福祉活動団体、ボランティア、事業所など、地域に関わる人々にとって、より協働しやすく、より実効性のある計画となっています。

緑区でも、緑区地域福祉保健計画と緑区地域福祉活動計画を一体的に策定しています。

2 第4期緑区地域福祉保健計画について

ア 計画期間

令和3年度から令和7年度

イ 基本理念及びその考え方

基本理念「誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして」は、全体目標（目指す姿）「一人ひとりが主役・共に支えあう つながりのあるまちづくり」とともに計画全体の総合的な指針として、第3期計画のものを継承することとしました。

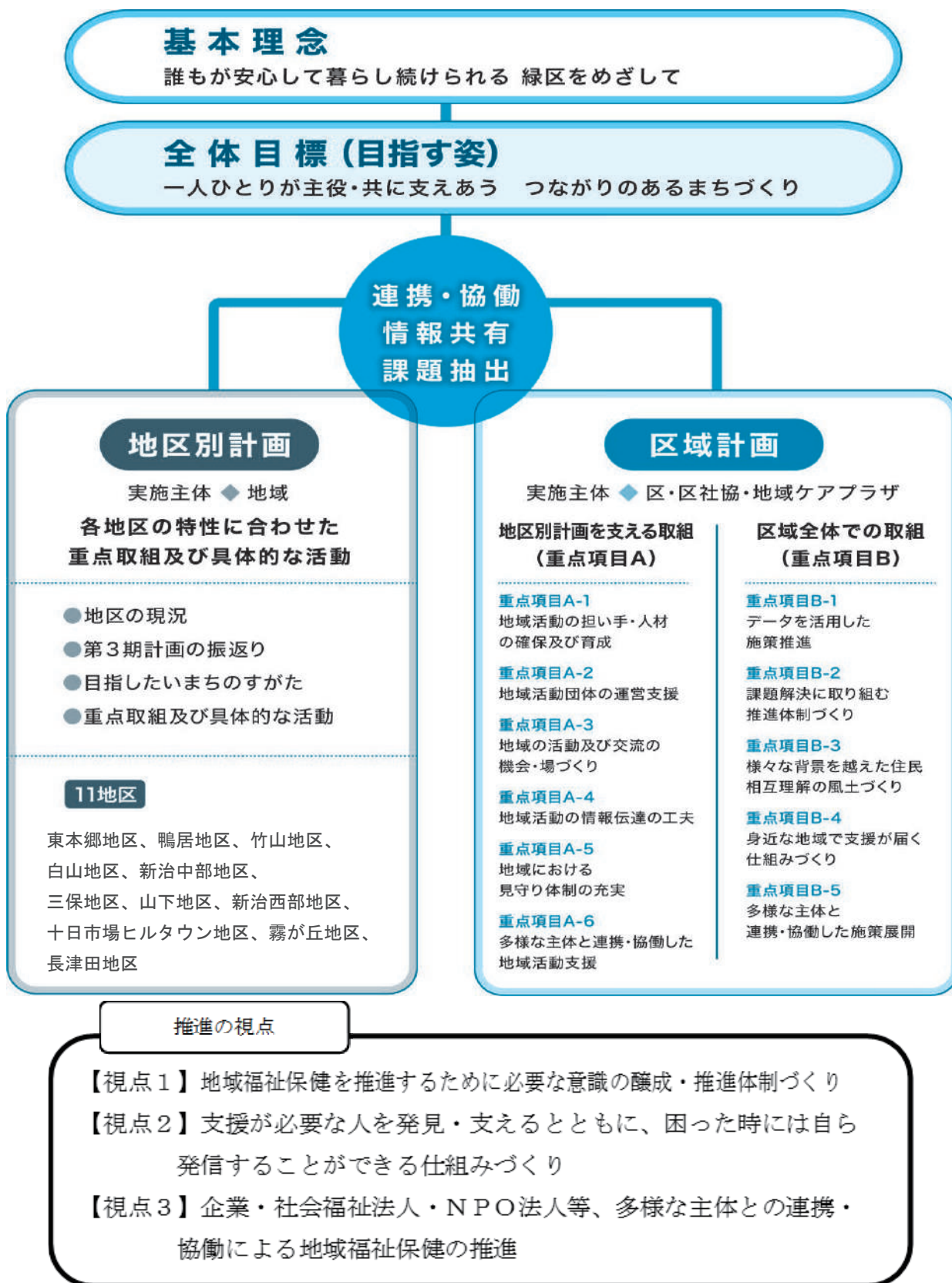
区民の誰もが、身近な地域で安心して暮らし続けられるまちづくりの実現を目指していくことが必要です。区民一人ひとりが、自分の持つ力を十分に発揮し、心豊かに充実した生活を送ることができるよう、区民、団体、事業者等が協働で、共に支え合い、区民同士のつながりのあるまちづくりを進めていきます。

ウ 地区別計画と区域計画の関連性

基本理念の実現を目指して、「地区別計画」及び「区域計画」を推進します。「地区別計画」については、各地区の特性に合わせた重点取組や具体的な活動を掲載しています。

一方、「区域計画」の重点項目については、各地区共通の課題解決のための重点項目としての「地区別計画を支える取組」と、区域の課題解決のための重点項目としての「区域全体での取組」の2つの性格のものを掲載しています。

なお、第4期計画では「地区別計画」と「区域計画」の関わりをより強調することにより、各地区共通で挙げられている課題の解決のために「区域計画」が支援することを明確化する構成としました。



第2章 地区別計画

1 地区別計画とは

区内の11 連合自治会・地区社協単位で開催される「地区別計画推進策定委員会」（以下、「地区別委員会」という。）が中心となって、各地区の特性を生かした地区別計画を策定しています。

各地区の「目指したいまちのすがた・スローガン」の実現を目指し、地区別委員会が中心となり、地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、地域福祉保健の推進に係る各種の情報の共有・意見交換や振り返りを行っています。

地区別計画

各地区の「目指したいまちのすがた」と重点取組



① 東本郷地区

地域が息づき、みんなが安心・安全を感じ、
住んでよかったと思えるまち 東本郷

- 重点取組 1 これからも、安心・安全な地域でつながり、
支え合い、一緒に楽しみを共有します
- 重点取組 2 地域の情報を誰もが入手しやすくします
- 重点取組 3 テーマ別の課題解決に向けて、地域の団体が
連携して取り組みます

② 鴨居地区

あなたが主役 地域が舞台
人情あふれる街・鴨居
～住み続けたい鴨居 笑顔をあなたに!!～

- 重点取組 1 地域で支え合い、つながりを大切にする
まちを目指します
- 重点取組 2 安全・安心のまちを目指します

③ 竹山地区

安全に安心して仲良く暮らせる街づくり

- 重点取組 1 様々な地区活動やボランティア活動等の体制
づくりを進め、担い手の負担軽減に取り組み
ます

- 重点取組 2 見守りが必要な人についての情報共有の工夫
や知りたい情報を正確に迅速かつわかりや
すく知らせる工夫に取り組みます
- 重点取組 3 世代間・団体間の交流を実現できる体制を構
築します

④ 白山地区

白山の自助・共助・近助による安全・安心な
コミュニティづくり～白山の絆で団結しよう！～

- 重点
取組 1** 〈福祉〉
孤立化を防ぎ、つながりを広げよう
- 重点
取組 2** 〈子どもの健全育成〉
子育てしやすい地域づくりをめざそう
- 重点
取組 3** 〈防犯〉
地域の防犯力を高めよう
- 重点
取組 4** 〈防災〉
地域の防災力を育もう
- 重点
取組 5** 〈環境〉
ごみ・美化・地球温暖化などの課題に地域で取り組もう

⑥ 三保地区

ゆるやかな見守りや支え合いのできる
仲間づくり

- 重点
取組 1** 地域でのつながりを大切に、活動を活発にしたい
- 重点
取組 2** 活動・交流を通じた見守り・支え合い

⑧ 新治西部地区

あいさつを元気に交わそう！
笑顔あふれ 集い楽しむ 新治西部

- 重点
取組 1** 地域の中で顔の見える関係を築き、交流を深めていきます
- 重点
取組 2** 地域情報を多くの住民に届けられるようにしていきます
- 重点
取組 3** 次世代に活動をつなげられるよう取り組みます

⑩ 霧が丘地区

防犯・防災・教育 日本一の街 霧が丘

- 重点
取組 1** 活動できる機会・場を通してつながりを大切にするまちづくり
- 重点
取組 2** 安全・安心・健康のまちづくり

⑤ 新治中部地区

次世代まで安心して笑顔で
暮らし続けられるまち

- 重点
取組 1** 防犯・防災に強い安全・安心のまちづくり
- 重点
取組 2** 住民同士の顔の見える関係が築かれたまちづくり
- 重点
取組 3** 次世代につながるまちづくり

⑦ 山下地区

地域のつながりや支え合いのある誰もが
元気で暮らし続けられる街をめざして

- 重点
取組 1** 住民相互の見守り、見守られる支え合いのまちづくり
- 重点
取組 2** 地域での「つながり」を大切に、「健康」で元気に暮らし続けられるまちづくり
- 重点
取組 3** 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり

⑨ 十日市場ヒルタウン地区

誰もが「住んで良かった」「住み続けたい」まち
十日市場団地

- 重点
取組 1** 地域での「見守り」を進め、支え合える地域にしていきたい
- 重点
取組 2** 地域活動を充実させ、地域の中で「つながり」をつくっていきます
- 重点
取組 3** 地域の情報の発信に取り組みます

⑪ 長津田地区

向こう三軒両隣、様々な世代がおたがいさまで
つながる長津田のまち、笑顔と元気は地域の
宝物、いいよね長津田！希望のまちへ！

- 重点
取組 1** おたがいさまの輪を大切にした、地域の身近なところでのつながりづくり
- 重点
取組 2** 情報の受発信・伝達の工夫
- 重点
取組 3** 次世代を見据えた住民同士の交流

2 令和6年度 地区別計画の推進について

(1) 地区別計画推進策定委員会開催状況

東本郷地区

- 第1回 令和6年6月29日(土)
テーマ:
3つの専門委員会からの報告、ひがほん郷まつりについて、第5期計画策定の進め方について、防災について考える会の立ち上げについて
- 第2回 令和7年2月22日(土)
テーマ:
ひがほん郷まつりの報告、3つの専門委員会からの報告、第5期計画の策定について

鴨居地区

- 第1回 令和6年7月13日(土)
テーマ:
これまでの地区別計画を振り返るとともに、鴨居チョイボラの依頼項目と、高齢者への対応について意見交換
- 第2回 令和6年12月7日(土)
テーマ:
鴨居チョイボラの依頼項目の確認と、第4期計画の振り返り、第5期計画について

竹山地区

- 第1回 令和6年9月20日(金)
テーマ:
第4期計画の取組み報告と進捗確認
- 第2回 令和7年2月7日(金)
テーマ:
竹山地区が「もっと健康になるためには」「もっとお互いさま(見守り・見守られる関係)になるには」「もっとつながりを強くするためには」をテーマに意見交換

白山地区

- 第1回 令和6年6月22日(土)
テーマ:
重点取組1「福祉」の振り返りと重点取組2「子どもの健全育成」についての意見交換
- 第2回 令和6年11月23日(土)
テーマ:
重点取組1、2、5「環境」の振り返りと第5期計画に取り組みたいことの意見交換

新治中部地区

- 第1回 令和6年7月20日(土)
テーマ:
重点取組3「次世代につながるまちづくり」
①イメージするまちとは②何をすればいいかについて意見交換
- 第2回 令和7年1月18日(土)
テーマ:
第4期計画振り返りと第5期計画の検討、ふれあいフェスティバルについて意見交換

三保地区

- 第1回 令和6年8月17日(土)
テーマ:
「支え合いのできる仲間づくりのために」に焦点を当て、ちよい助プロジェクト、地域で気になること、今地域に必要なことについて意見交換
- 第2回 令和7年2月8日(土)
テーマ:
ちよい助プロジェクトの報告、三保地区の活動の振り返りと今後の三保地区に必要な取組について意見交換

山下地区

●第1回 令和6年10月8日(火)

テーマ:

地域の活動に関わることの良さ、活動に関わることで得られるもの(楽しみ、魅力)について

●第2回 令和7年1月16日(木)

テーマ:

第4期計画期の地域活動の成果や課題について(振返り)、第5期計画の策定に向けて

新治西部地区

●第1回 令和6年8月29日(木)

テーマ:

令和6年度「みんなでわくわく街歩き」の実施について、人材発掘の工夫の共有、第5期計画の策定について

●第2回 令和7年2月12日(水)

テーマ:

「みんなでわくわく街歩き」令和6年度の実施報告について、第5期計画策定に向けた意見交換

十日市場ヒルタウン地区

●第1回 令和6年8月23日(金)

テーマ:

子育て世代の集える場の開催状況について、今ある活動を活かした行事や団体同士の連携方法について、第5期計画について

●第2回 令和7年2月5日(水)

テーマ:

今ある活動を活かした行事や団体同士の連携の進捗状況について、子育て世代の集える場の開催状況について、第5期計画について

霧が丘地区

●第1回 令和6年6月29日(土)

テーマ:

重点取組に関連した各団体の活動報告

●第2回 令和6年12月21日(土)

テーマ:

第5期計画に向けて、活動していてよかったこと、課題に思ったこと、今後やりたいことの意見交換

長津田地区

●第1回 令和6年8月25日(日)

テーマ:

長津田地区における住民同士のつながりづくりについて、住民懇談会の進捗報告、第5期計画策定のスケジュールについて

●第2回 令和7年1月26日(日)

テーマ:

第4期計画の振返りと第5期計画の策定について、部会からの報告、第5期計画の策定に向けた意見交換



東本郷地区

＜地区＞東本郷1～6丁目、東本郷町

【活動の概要】

東本郷地区では、「つながり」を大切にしながら、ひがほん郷まつり、体育祭、どんど焼きなどの行事や取組を行っています。そのことで、「地域と学校」、「地域と子ども」のつながりが、地域の中で少しずつ強くなっています。

また、3つの専門委員会（健康づくり委員会、高齢者支援委員会、子ども・子育て支援委員会）では、それぞれ課題解決に向けた話し合いを行い、取組を進めています。各委員会での取組は、毎回の地区別計画推進策定委員会の中でも共有され、意見交換等で出た意見を取組に反映させています。

今後も、地域での話し合いを重ね、「つながり」を大切にしながら、さらに取組を進めていく予定です。

キーワード

地区内の連携

つながりづくり

こども子育て支援

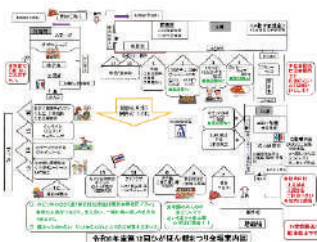
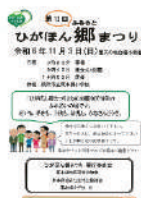
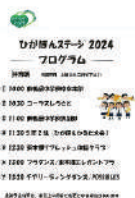
東本郷地区の取組紹介

【重点取り組み＆具体的な活動】

重点取り組み 1

これからも、安心・安全な地域でつながり、支え合い、一緒に楽しみを共有します。

11月3日、東本郷小学校で「第12回ひがほん郷まつり」を開催し、約2000人が来場しました。ひがほん郷まつりは、「老いも、若きも、幼児も集えるまつり」を掲げて行われていますが、校庭では、昨年度に引き続き同小5年4組が作った「おやき」を販売。体育館では東鴨居中学校吹奏楽部の演奏をはじめ、同演劇部などの発表が行われました。また、5年2組児童による「ひがほんかるた大会」なども実施しました。コロナが下火となり、疎遠となってしまった地域の密接な交流を取り戻すべく、従来の規模での開催となりました。また、今回は地域で活動している多くの団体が日頃の成果を発表する場として様々な世代の交流の場として開催されました。



重点取り組み 2

地域の情報を誰もが入手しやすくします。

【具体的な活動】

従来の回覧・掲示板に加え、東本郷地区社会福祉協議会による「社協ニュース」のタイムリーな発行とホームページの充実を図りました。



▲地区別計画推進策定委員会の様子



▲名取地区社協会長

▲崎詰連合自治会長



▲地区社協ニュース

重点取り組み 3

テーマ別の課題解決に向けて、地域の団体が連携して取り組みます。

【具体的な活動】

○健康づくり委員会

- ・ラジオ体操普及促進のため、乾電池配布の代わりに乾電池代金の精算を行いました。
- ・ひがほん郷まつりでは、保健活動推進員と協働で健康チェック、体力測定を実施しました。
- ・3月2日、健康講座をみどりハイムで開催しました。今後も健康づくりイベントとして開催する予定で、今後は、全ての年齢層の健康づくりに寄与する活動を行っていく予定です。

○子ども・子育て支援委員会

・地域の方から野菜や果物などをいただいたり、補助金を活用しながら、やりくりしています。知名度が高くなり、兄弟で食べに来る子どもたちが多く半年で人数が大幅に増加しました。参加者が50人を超えることがあり、今後も補助金などを有効利用しながら、実施していきたいと思います。人数の増加に伴い、一人ひとりを見る時間が少なくなっているなどの課題も出てきています。

○高齢者支援委員会

・今年度は高齢者向け福祉用品について学ぶ講座を企画、実施しました。昨年度に引き続き今年度も地域の方やボランティア対象に9月に尿もれ予防講座を行い「尿取りパッドの仕組み・使い方」や「オムツの使い方や種類」などを学習しました。



▲健康講座の様子



▲尿もれ予防講座



▲朝ごはんを食べる会 区長訪問



▲地区社協ホームページ

鴨居地区

＜地区＞鴨居1～7丁目、鴨居町

【活動の概要】

地域のチョット手助けボランティア「鴨居チョイボラ」は、住民が相互に助け合う仕組みで、地域のつながりを大切にした活動を行っています。地区別計画推進策定委員会や鴨居チョイボラコーディネーター会議では、鴨居チョイボラの活動内容や依頼項目について検討を行い、メニューは原則、「草取り」「枝切り」「電球交換」とし、他の依頼内容は個別で相談となりました。

「鴨居こども食堂 ぱくぱく」は、多くの親子が参加され、地域のボランティアを含めた交流の場となっており、見守りにつながっています。

また、「鴨居納涼盆踊り大会」は流行りの曲を取り入れ、事前にダンスレッスンをするなど、多世代交流の場になっています。

今後も、地域の活動について検討を重ね、大事な活動は伝承し継続するとともに、新しいことも取り入れ、地域の活性化に取り組んでいきます。

キーワード

見守り・
支え合い

助け合い
ボランティア

多世代交流

鴨居地区の取組紹介

『鴨居チョイボラ』コーディネーター会議を開催



9月14日（土）19：00より、鴨居会館で「鴨居チョイボラコーディネーター会議」を開催しました。当日は、各地区のコーディネーターと連合自治会役員が集まり、活発な意見交換が行われました。

実績報告では、人口が多いこともあり第四地区からの依頼が多いこと、また依頼を受け付ける際の注意点などが共有されました。



依頼を受けるかどうかの判断については、会館受付者が判断するのではなく、各地区のコーディネーターが判断すること、受けることができない依頼は業者を紹介すること、心配なケースはケアプラザに連絡を入れることなどについても確認をしました。

また、コーディネーターが判断しやすいように、事例をもとに、確認する内容について意見交換を行いました。

鴨居こども食堂 ぱくぱく

「ぱくぱく食堂」の活動も5年目に入りました。地区を越えた様々な方にご協力いただき、順調に活動しています。

1組の親子からスタートした活動ですが、現在は16組の親子が参加。ボランティアさんの協力のもと、毎回40～50食の食事を提供しています。



参加者の方も顔なじみになり、子どもたちもお友達になり、にぎやかな場になっています。そのような中でも、ボランティアが参加者に声をかけたり、保護者の悩みを聞くなど、保護者の方がくつろげる時間になるように見守りも行っています。

鴨居納涼盆踊り大会



毎年7月に開催している「鴨居納涼盆踊り大会」。

今年は趣向を凝らし、事前に踊りの練習日を設け、みんなでダンスレッスンを実施しました。子どもから大人まで約50名が集まり、流行りの曲をダンスダンス。

盆踊り当日は、練習に参加された方も含め大勢の方が櫓の周りに集まり大盛況の盆踊り大会になりました。

鴨居連合自治会ホームページ

鴨居地区では、鴨居連合自治会ホームページ担当が中心となり、新しい情報を発信するために毎月更新作業を行っています。

自治会行事のお知らせだけでなく、地域防災拠点をはじめ、関係団体のリンク先も掲載されており、鴨居地区全体の情報窓口になっています。

全て手作りのホームページです。



竹山地区

<地区>竹山1～4丁目

【活動の概要】

竹山地区では、「安全に安心して仲良く暮らせる街づくり」を目指して、活動と進捗を確認しながら、様々な取組を進めています。

子どもたちのために様々な団体が協力して始めた「竹山宿題応援団」は、子どもたちが学生をはじめ、ボランティアである地域の方と交流する良い機会になっています。また、保健活動推進員が学校へ出向き、子どもたちにベジチェックを行うことで、子どものうちから健康づくりに取り組むとともに、良い交流の場になりました。このような様々な団体の活動を通じて、地域の方が集える場、交流の場が増えています。

また、今年度の地区別計画推進策定委員会では、「竹山地区がもっと“健康”になるためには」、「もっと“お互い様(見守り・見守られる関係)”になるためには」、「もっと“つながりを強くする”ためには」の3つのテーマについて話し合いました。

今後も、竹山にとって必要な取組について、引き続き検討していきます。

キーワード

地区内の
連携

顔の
つながり

多世代の
つながり

交流の場

竹山地区の取組紹介

竹山宿題応援団

～ 子どもたちとの交流 ～



竹山小学校3年生を対象に行っている「竹山宿題応援団」も活動を始めて3年が経ちました。今年度はこれまでで1番多い半数以上の子どもたちが参加しました。子どもたちが集中しやすいように机の配置を工夫するなどしながら、神奈川大学の学生や、地域のボランティアの方が宿題のサポートを行いました。

竹山小学校 × 保健活動推進員

～ 子どもたちもベジチェック! ～

保健活動推進員の方にご協力いただきながら、10/29(火)竹山小学校の2年生と5年生を対象に、野菜摂取量が推定できる「ベジチェック」を行いました。当日は保健活動推進員の方からのお話の後、一人ずつ測定を行いました。測定結果に歓声が上がったり、ため息がでたり。

11/10(日)に開催した竹山福祉まつりでもベジチェックを行ったこともあり、小学校で測定した子どもたちがお母さんを連れて測定に来てくれました。



みんなの居場所

～ みんなが集える交流の場 ～



参加された方が楽しめるよう、様々な企画で皆さんを盛り上げました。



元気会

落語や民謡の歌声を楽しみました。



いちょうの会

マジックや脳トレを楽しみました。

ふれあいさろん竹多久

のぼり旗を作成しました！
抹茶の日を再開しました。



竹生クラブ

ラジオ体操、グラウンドゴルフ等
皆で楽しんでいます。



トピックス

～ みんなが集える場所が増えました ～

商店街にある「竹山キッチン」では、放課後の時間を子どもたちに開放しています。駄菓子コーナーもあり、子どもたちの集合場所になっています。集まったあとは、みんなで公園に行ったり、竹山キッチンの中でおしゃべりをしたりしながら楽しんでいます。



白山地区

<地区>白山1～4丁目

【活動の概要】

白山地区では、5つの重点取組に基づき話し合いを重ね、住民同士のつながりや地域のゆるやかな見守りネットワークづくりに取り組んでいます。

今年度は、「子どもの健全育成」について話し合いを行い、夏休みに4拠点でラジオ体操を開催しました。当日は、子どもからお年寄りまで多くの方が参加され、地域住民の新たな交流の場となりました。

また、農業体験、白山ボランティアの会「猫の手」の清掃活動、白山健康福祉マージャン、5年ぶりに集まって開催となった書初め・川柳大会など、地域で活動が広がっています。

今後も、より多くの住民のつながりができるよう、白山連合自治会のホームページやイベントカレンダーを通じて、情報や活動を発信し、地域の見守りネットワークを広げていきます。

キーワード

多世代の
つながり

交流の場

見守り

白山地区の取組紹介

農業体験を開催

重点取組Ⅰ

「孤立化を防ぎ、
つながりを広げよう」

白山地区では、孤立化を防ぐために様々な取組を行いました。その一つとして、白山地区社会福祉協議会が中心となり、「農業体験」を開催しました。6/8（土）にはシオザワファームで「じゃがいも掘り」と「さつまいもの苗植え」を行いました。晴天の下、大人51名、子ども12名が参加しました。初めてのじゃがいも掘りで歓声を上げる子どもたち、久しぶりの畑で懐かしそうに土を触る高齢の方、多世代交流の場にもなりました。

また10/26（土）には、6月に植えた「さつまいも掘り」を行い、小学生の親子を中心に43名が参加されました。大小さまざまなさつまいもを、皆さん笑顔で掘っていました。当日は鴨居中学校の生徒さん2名もボランティアとして参加してくださり、力仕事でもある刈り取ったツタの運搬を手伝ってくれました。

収穫したさつまいもの一部は、近隣で開催している子ども食堂に寄付をしました。



ラジオ体操を開催

重点取組 2 「子育てしやすい 地域づくりをめざそう」

子どもたちが参加できるイベントを増やそうという
ことで、白山連合自治会が中心となり、夏休みのラジオ体操を開催しました。協力に手を挙
げてくれた自治会、各種団体の協力のもと、夏休み期間中に4拠点で開催することができま
した。当日は子どもだけではなく、保護者の方、近隣の方も参加してくださり、朝から賑わ
っている拠点もありました。

今回、保護者や子どもたちにこの活動を知ってもらうために、緑小学校に協力を依頼し、
「すぐーる」を使って保護者に情報発信をしてもらいました。「子育てしやすい地域づくり」
を目指して、今後も地域全体で取り組んでいきたいと思います。



書初め・川柳大会

コロナ禍で、集まっての開催ができなかった書初め大会。
今年度は5年ぶりに開催することができました。緑小学校
の体育館で、子どもたちはのびのびと課題の文字を書き上げ
ました。



書初めの後は、お楽しみの豚汁とビンゴ大会で大盛り上がり。久しぶりの開催で準備が
大変でしたが、子どもから大人まで皆の笑顔が見ることができ、無事に開催できたことに
ホッとしました。

今後も多世代が交流できる場を開催していきたいと思います。

また白山地区の情報は、随時、白山連合自治会ホームページで発信していきます。



トピックス



白山地区では、災害時の取り組みとして、毎月無線訓練を行っています。

毎月第1日曜日の朝は民生委員児童委員協議会が中心に、第4土曜日の夜には連合自治会が
中心に行っています。災害はいつやってくるかわかりません。普段からの意識づけのために今後
も範囲を広げながら続けていく予定です。

新治中部地区

＜地区＞台村町、森の台、寺山町、中山1～6丁目、上山1～3丁目

【活動の概要】

新治中部地区では、「次世代まで安心して笑顔で暮らし続けられるまち」を目指して、地区連合全体で多世代交流イベント「地域ふれあいフェスティバル」を開催しています。

また、地区別計画推進策定委員会では、「地域ふれあいフェスティバル」の検討や第5期地区別計画に向けた意見交換を行いました。誰もが参加しやすいイベントや楽しい自治会づくりなどの意見があり、今後も日頃から顔の見える関係づくりや地域とのつながりを大切にした取組を進めていきます。

キーワード

地区内の
連携

防犯・
防災

多世代の
つながり

交流の場

新治中部地区の取組紹介

新治中部地区「地域ふれあいフェスティバル」開催しました！

《第一部》「防犯・防災キャッチフレーズ」表彰式

昨年に続き、小学生と中学生に防災・防犯のキャッチフレーズを募集しました。最優秀作品として4作品が選ばれ、いずれも「あいさつ」や「地域の輪」といったフレーズが入っていました。子どもたちの間で“地域のつながり”への関心が高まっていることを感じます。

最優秀賞作品に選ばれた子どもたちは、表彰状を授与された後に、自身のキャッチフレーズが入った横断幕と一緒に記念撮影をしました。



《第二部》 中山中学校吹奏楽部による演奏

令和6年10月19日「新治中部地区地域ふれあいフェスティバル」において、中山中学校吹奏楽部の演奏会を開催しました。会場となった中山中学校体育館は、地域の方々や児童生徒、保護者、卒業生、未就学児などたくさんの方々の熱気に包まれました。

「ジャンボリー・ミッキー」の曲目では、演奏とともに、キャラクターのカチューシャをした生徒がダンスを披露し、会場を大いに盛り上げました。8名の生徒が演奏した木管八重奏「森の巨人の詩」は一転して、会場をしっとりとした音楽の世界に引き込んでいきました。ラストは、おなじみのアンコール曲「ヤングマン」で、「Y.M.C.A.」のかけ声で会場は一体感で最高潮に達しました。

横浜市中山中学校 副校長 草野 健太



《第三部》 防犯・防災クイズ大会

20数年前に、中学生と青少年指導員、スポーツ推進委員、子ども会の育成スタッフ間の交流が目的で始まりましたが、回を重ねるごとに民生委員・児童委員や保健活動推進員など他の団体の協力を得て、新治中部地区連合自治会の唯一の行事となっていました。

今年は、より具体的に防犯・防災について学ぶため、青少年指導員が考えた〇×クイズを行いました。防災標語のクイズは、緑消防署寺山署長からも問題を出して頂き、大いに盛り上がりしました。

今後も小中学生の皆さんと一緒に安心安全な地域づくりを考えると共に、よりたくさんの方が参加するふれあいフェスティバルをめざしていきたいと思います。

新治中部地区寺山町 青少年指導員/民生委員・児童委員 野中 文子

昨年の「みどりのわ・ささえ愛プラン」区民アンケート調査結果を見ますと、近所付き合いがない：約70%、日頃から顔の見える関係作りに取り組むことが必要：約90%、そのため「挨拶・声がけ」「日頃からの近所付き合い」が必要と考えている人が多い。私は自治会には手段・目的があると思います。手段は、運動会、盆踊り、お祭り、防災訓練を通じ楽しみながら行事を行うことです。目的は、普段から顔の見える関係、横の繋がりを構築することです。そして、いざ災害がきたとき皆で助け合い、協力しあうことが肝要です。昨年も児童・生徒のみなさんに、防犯・防災のキャッチフレーズに応募して頂きました。最優秀作品の中に、「地域」の文字が入っており、児童・生徒のみなさんは地域のことを考えているのだと思いました。少ない文字の言葉ですが、「愛」がこもっていました。これからも、学校・家庭・地域で連携し協力しあうことが肝要です。「地域愛」を高め、将来担い手になっていただければと思います。

新治中部地区連合自治会 会長 白井 孝一

三保地区

<地区>三保町

【活動の概要】

三保地区では、ウォークラリー大会、健民祭、こどもフェスタ、学校での昔遊び、ふれあい給食などのイベントを通じて、子どもからお年寄りまで交流し、地域のゆるやかな見守りにつながっています。

また、三保ちょい助プロジェクトでは、ちょっとしたお困りごとを地域で支え合う仕組みづくりに取り組んでいます。

今後もお互い見守り、支え合いのできる仲間づくりを進めていきます。

キーワード

見守り・
支え合い

多世代の
つながり

交流の場

三保地区の取組紹介

◆【三保ちょい助】プロジェクト立ち上げ！◆

●発足のきっかけ

地域の中のお困りごとを地域で支え合う仕組みづくりにと、準備期間を経て令和5年12月より「三保ちょい助プロジェクト(PJ)」が発足しました。メンバーは、三保地区内で活動している団体の代表約20名と支援チーム10名で構成して、スタートしています。

●三保町全6,500世帯にアンケート配布(約2割の回答)

地域で何を困っているのか？どうしてほしいのか？地域のニーズを集計する形で提案しました。高齢者からは、庭の手入れ・家具移動・電球交換・スマホの使い方など、30代から40代は、通学サポート・子どもの見守りなど様々なニーズがあることがわかりました。

●今後に向けて

自治会の存在価値や地域との支え合いは、何かあったらではなく、日頃からの結びつき(絆)が大切です。ちょい助を通してもっと三保地区が活発に、そして支え合いの輪を広げていくことができると感じています。

※令和7年7月から試行期間としてプレススタートできるよう全力で取り組んで参ります。



三保ちょい助事務局 勝田 裕

◆昔遊びを子ども達といっしょに体験しました！◆

【昔遊び】は三保小学校の一年生を対象に、地域の方が子どもの頃やっていた遊び、けん玉・ヨーヨー・こま・めんこ・あやとり・折り紙などを子どもに伝え、一緒にやってみようという取り組みです。

最初の頃、できるかなあと腰が引けていた子ども達から手紙を貰ったり、“今日は楽しかった！”とお母さんと話したりする姿も想像することができます。また、新しい1年生も、こういう体験をして貰えたら楽しいのかなと思っています。

三保地区社会福祉協議会会長 秋山 徹雄



◆ふれあい給食をいただきました！◆

令和6年10月7日 三保小学校にて行われました。

3年生5クラス、4年生4クラス、招待者36名、宮根クラブ会員6名は、4年4組の教室案内係のお子さんが図書室に迎えに来てくれて、4年4組の教室へ案内されました。

笑顔での出迎えで始まり、いよいよ交流会の開始です。給食会では、グループごとの会食で「私ね・・・僕ね・・・。」と会話が弾み楽しい時間となりました。

子ども達は自分の持ち場をしっかりと行い、先生ともコミュニケーションがとれる素敵なクラスで、“進んで学び・高め合う子”地域の方々との“ふれあい”もしっかりと根づき、輪を広げた活動が長年継続されているふれあい給食であると感じました。後日談ですが、防災訓練時に4年4組の子どもが声をかけてくれました。あの給食会の時のお子さんが私のことを覚えてくれていたことに感動しました。ありがとう。

三保地区老人クラブ連合会会長 平井 充子



山下地区

＜地区＞西八朔町、北八朔町、小山町、青砥町

【活動の概要】

山下地区では、様々な行事やスポーツイベントなどを通じて、交流する機会や場づくりにつなげています。

今年度の地区別計画推進策定委員会では、地域の活動に関わることになった「きっかけ」や「活動の魅力」などについて話し合いました。その中では、きっかけや魅力などを様々な世代に伝えていくことの大切さについて共有することができました。

今後も「地域のつながりや支え合いのある 誰もが元気で暮らし続けられる街をめざして」をスローガンに、様々な取組を進めていきます。

キーワード

つながりづくり

地区内の連携

山下地区の取組紹介

【ささえあいバス】

平成31年4月から運行しています。

令和5年には車両も新しくなりました。

地域のボランティアの協力を得て、火曜日から金曜日の午前中にお買い物を中心に利用されています。

午後からは、グループ便として利用されています。サロンへの送迎や地区社協のお食事会や体操教室などに利用されています。午前中は、添乗員が乗っており、乗降の見守りをしています。バスの中は、顔見知りになり、話が盛り上がっています。顔の見える関係づくりができています。しばらく会わないと心配をし、久しぶりに会うと安心をして緩やかな見守りにつながっています。

区民まつりや山下地区運動会、北八朔公園フェスティバルなどでもバスの展示をしました。



【障がい福祉事業所とつながる地域】

活動目的

山下地区には多くの障がい者施設があり、地域で顔が見える関係づくり
地域で助けあえる関係づくりを目指します。



障がい者事業所とのポッチャ交流会



山下つながるアート展覧会



小学生への福祉教育 ポッチャ大会

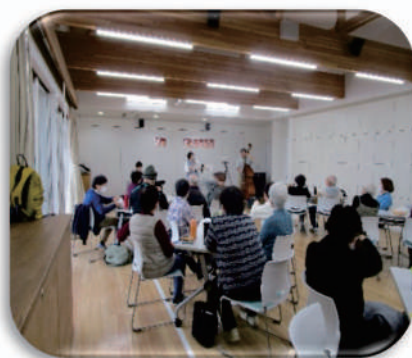
活動内容

地域にある障がい福祉者事業所が日頃どんな活動しているかを知ってもら
うためにケアプラザで『山下つながるアート展覧会』を令和3年度から
始めました。

作品の展示や販売だけでなく、実際に作品を作っているところを見てもらい
地域の方からの質問に応じてコミュニケーションを図りました。

小学生とのつながりでは、パラスポーツのサッカーで活動している方に
来てもらいサッカーを始めるきっかけや自分の病気について、皆さんにどんな
ことを助けてもらいたいかなどお話ししてもらいました。その後は車いすを
使用する利用者と一緒にポッチャ大会を行いました。

今年度は山下つながる音楽カフェを行い、音楽を聴きながら障がい福祉事業
所が販売するコーヒーやサンドウィッチ、クッキーを食べて地域の方と一緒に
テーブルで交流しました。



山下つながる音楽カフェ



障がい者事業所 販売風景

新治西部地区

<地区>

新治町・十日市場町・長津田みなみ台6・7丁目の一部

【活動の概要】

新治西部地区では、「あいさつを交わそう！ 笑顔あふれ 集い楽しむ新治西部」をスローガンに取組を進めています。

地区別計画推進策定委員会では、仲間の得意を活かした、地域活動とのコラボレーションについての検討も行いました。

また、令和4年度から始まった、「わくわく街歩き」も3回目を迎え、こどもから高齢の方まで幅広い世代が参加するイベントとなりました。これからも「つながりづくり」を意識しながら、工夫して実施していく予定です。

キーワード

地区内の連携

つながりづくり

新治西部地区の取組紹介

「みんなでわくわく街歩き」

今年度で3回目となる、新治西部連合自治会の街中を舞台にしたスタンプラリーイベントが開催されました。家族や身近な人とグループを組んで、どなたでも参加できる形式です。

各自治会館をスタート地点とし、公園や公共施設などのチェックポイントの中から、参加者が自分で行きたいポイントを選び、散策を楽しみました。

当日の様子

今回のイベントには計408名が参加し、その内訳は参加者が299名、スタッフが109名です。幼児から一般まで幅広い年代の方々が参加されました。

また、自治会役員、こども会、学生ボランティア（東洋英和女学院大学、横浜創英大学）の協力を得て、円滑に運営されました。

イベントには15カ所のチェックポイントが設定され、自治会館で受付後、各スポットを目指して散策が行われました。特に200名以上が立ち寄ったポイントは3カ所（CP/図書館、ダイエー、日向山公園）あり、そのうち3名がチェックポイントをすべてコンプリートしました。

来年度に向けて

来年度も「人と人とがつながる」ことを目的に、継続して実施したいと考えています。

周知方法として、ポスターの掲示を検討しており、チェックポイントの工夫も進めたいと思います。

例えば、健脚の方や小学生向けには遠方のポイントを、高齢者や幼児連れの方には近いポイントを設定するなどの配慮を行いたいと考えています。

「みんなでわくわく街歩き」 当日の様子



当日の楽しい様子が伝わってきますね。
来年度はよりパワーアップして開催します。
みなさんぜひ遊びに来てくださいね♪

その他の取り組み

十日市場町、新治町、後谷の各地域で「得意を持っている人」を発掘し、その特技を活かした地域活動とのコラボレーションを行いました。



十日市場ヒルタウン地区

＜地区＞ 十日市場町（十日市場ヒルタウン地区）

【活動の概要】

十日市場ヒルタウン地区では、「誰もが『住んで良かった』『住み続けたい』まち十日市場」を目指して、様々な取組を進めています。

地区別計画推進策定委員会では、「コラボレーション」をキーワードに、自治会や様々な活動団体が一緒にできることを考え、進めてきました。

また、昨年度の委員会で提案のあった、子育て世代が集える場づくりについても、取組が始まりました。

これからも、これまでの取組を大切に、各団体がお互いに協力しながら、取組を進めていきます。

キーワード

地区内の連携

子育て支援

十日市場ヒルタウン地区の取組紹介

今年度は、夏祭りや運動会に加え、「みんなでカレーを食べましょう」や「もったいない～ありがとう」など、これまでの取り組みを継続しながらさらに充実させ、より活気あふれる一年となりました。



▲ 夏祭り



▲ みんなでカレーを食べましょう



▲ 防災訓練



▲ 餅配り会



💡「お茶飲み会」

毎月一回、十日市場ヒルタウンにお住まいの皆さまが気軽に集い、お茶を飲みながら楽しいひとときを過ごす場を提供しています。

今年度は、お茶菓子を楽しみながらの交流や、昨年度よりさらに充実したクリスマス会を開催し、笑顔あふれる集いの場となりました。

また、消費生活推進員や保健活動推進員とのコラボも行いました。

さらに民生委員・児童委員、環境事業推進委員とも連携し、より多くの皆さまにご参加いただける活動を展開してきました。



💡子育て世代(養育者)の集える場

昨年度の委員会で提案された、子育て世代が集える場が「子育て世代(養育者)の集える場」として今年度誕生しました。

書き初め大会や餃子づくりに加え、子どもたちの要望を受けてクッキーづくりも実施し、楽しい時間を共有しました。

来年度は、この活動を継続しながらさらに内容を充実させ、気軽に参加できる場を目指していきます。

💡その他の取り組み

近年、ヒルタウン内では「移動販売」が活発になってきています。

移動販売が自宅の近くまで来ることで、高齢になっても自分の目で商品を選びながら買い物を楽しむ機会が生まれます。

さらに、買い物支援にとどまらず、介護予防や地域の交流の場としても活用しようとする動きが広がっています。



霧が丘地区

＜地区＞霧が丘1～6丁目

【活動の概要】

霧が丘地区では、日頃からご近所づきあいをすることで、お互いに見守りあい、助けあい、安心して生活ができるまちづくりに取り組んでいます。

霧が丘盆踊り大会、霧が丘大運動会、防犯パトロール、交通安全教室、健康チェックの日、移動販売、霧が丘ボランティア相談室と様々な活動を行っており、子どもからお年寄りまで多くの方が参加されています。

今後も活動を通してつながりを深めるとともに、多くの方へ情報が届けられよう情報発信を強化し、地域活動を広げていきます。

キーワード

活動できる
機会

交流の場

見守り・
支え合い

霧が丘地区の取組紹介

地域の皆さんのつながり作りのために、
若い世代にも参加しやすい行事や誰もが活躍できる場づくりを行いました！

スタントマンによる『交通安全教室』

スタントマンによるスケアードストレイト方式の交通安全教室を4年ぶりに開催しました。当日は、朝から雨が降ったため、グラウンドではなく霧の里体育館での実施となりましたが、多くの親子連れが参加しました。

霧が丘は多くの外国人が暮らす街です。そして、霧の里3階にはIISJ(インディアインターナショナルスクールインジャパン)があり、インド系のこどもたちも多く住んでいます。

そこで日本人だけではなく、霧が丘に住むすべてのこどもたちに日本の交通ルールとマナーを学んでもらうために霧が丘学園とIISJに声をかけて実施しました。日本語がわからないIISJに通うこどもたちのために、国際交流ラウンジより通訳ができる方にも来ていただきました。

基本的な自転車のルールやマナーを教えていただいた後に、傘を差しながらの自転車の走行や自転車の並走、そして二人乗りをするとどんな危険があるかを見せていただいたり、イヤホンをしていると周りの音が聞こえなくなることを小学生が実際に体験したりしました。危険な場面を目の当たりにし、交通安全について一人ひとりが考えるよい機会となりました。



第41回霧が丘大運動会

今年はコロナ禍前に戻り、5年ぶりに霧が丘学園中学部の広いグラウンドで開催しました。

未就学児から高齢者まで、様々な年代の方が参加し、秋晴れの中、スポーツを楽しみました。

工夫を凝らした様々な競技に多くの方が参加しました。特に親子参加型の『親子でゴール』には参加希望者が殺到するほどでした。競技に参加した方にはもちろん参加賞があり、参加者の楽しみとなっています。

会場が広くなったこともあり、障がい者席を設けました。霧が丘ひまわり教室に参加しているメンバーさんも安心して運動会を観覧することができ楽しまれていました。



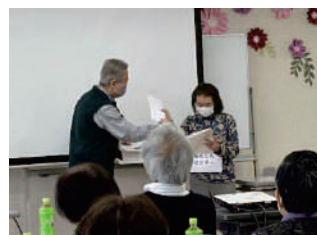
今回、初めて中学生から開催の手伝いをしたいとの声があがり、運営の一部を担っていただきました。さらに、霧が丘学園小学部の『霧が丘ソーラン』の披露や霧が丘学園中学部吹奏楽部の演奏が会場を盛り上げ、小・中学生が地域の行事で活躍する場にもなりました。

霧が丘ボランティア相談室

霧が丘ボランティア相談室は、霧が丘地区社会福祉協議会の事業で、誰もが安心して住み馴れた霧が丘で暮らし続けるために高齢者世帯や、一人暮らしの方、その他支援を必要としている方に地域のボランティアの協力を得て活動しています。ちょっとした生活の困りごとの電球の交換やゴミ出しから草取りや外出の付き添いまで対応しています。

年に2回勉強会を開催し、活動に役立つことや知識として知りたいことを学ぶ機会を設けています。この勉強会は登録しているボランティアだけでなく、地域の方であればどなたでも参加することができ、霧が丘ボランティア相談室の周知やボランティアへのきっかけづくりの場にもなっています。令和6年度は6月に『車いすの取り扱いと乗車体験～在宅介護・生活を支える福祉用具の使い方～』、3月に『困ったときに役に立つ金銭管理の制度を学ぼう！』を開催しました。

参加者の皆さんからは、「知らなかったことばかりで勉強になりました」「実際に体験しないと解らないことが多いので、このような機会は良いと思います。」といった感想をいただきました。



長津田地区

＜地区＞

長津田1～7丁目、長津田町、いぶき野

長津田みなみ台1～5丁目、6・7丁目の一部

【活動の概要】

長津田地区では、「向こう三軒両隣でともに支え合うまちづくり」を目指して、様々な取組を進めています。取組を進めるにあたり、中心となっているのは、「高齢者福祉部会」、「こども・子育て部会」、「長津田ささえあいネット部会」の3つの部会です。

高齢者福祉部会では、ケアプラザまで外出しづらい方を対象にした出前講座を実施したり、学生を対象にした認知症サポーター養成講座を開催しました。こども・子育て部会では、今年度、子育て情報をまとめたマップの更新作業に着手し、来年度の発行を目指しています。ささえあいネット部会では、協力事業者との意見交換会を実施し、日頃のそれぞれの見守り活動について、共有するとともに、これからの活動について、一緒に考える機会となりました。

今後も、「向こう三軒両隣でともに支え合う」ということを大切にしながら、取組を進めていきます。

キーワード

推進体制

見守り

子育て支援

長津田地区の取組紹介

地区別計画推進策定委員会

検討された内容

第1回 「つながり」をテーマとして地区別計画の重点取組1「おたがいさまの輪を大切に、地域の身近なところでのつながりづくり」、重点取組3「次世代を見据えた住民同士の交流」を中心に、「つながり」をテーマに第4期計画の振り返りを行いました。

第2回 第5期計画策定に向けて、部会の報告と今後どんなことが大切になるかを話し合いました。



向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり運営委員会

高齢者福祉部会

高齢者や、高齢者の家族の方に役立つ情報が届くように、自治会の集会所を利用して講座を開催しました。

日にち：令和7年1月30日（木）

場 所：上の原グリーンハイツ 集会所

テーマ：「介護に備えて～知って安心・得する知識～」

内 容：①介護保険のいろは
②横浜市独自サービスについて
③地域包括支援センターの個別相談



▲講座の様子

ささえあいネット部会

長津田地区では、「見守りネットワーク」活動があり新聞社、商店街、郵便局、介護保険事業所等が協力事業者として登録されています。

ささえあいネット部会では、長津田地域ケアプラザと共催し見守りについて意見交換会を開催しました。

日にち：令和7年3月18日（火）

場 所：長津田地域ケアプラザ

テーマ：地域の身近な見守りについて、私たちにできること

内 容：①長津田地区社協の活動について
②長津田地区の世帯データ、相談傾向について
③参加者が見守りで感じていること、意見交換



▲意見交換会の様子

こども・子育て部会

○部会で作成している「長津田地区親子でお出かけ会場マップ」の更新について検討しました。

長津田地区子育て支援連絡会の参加団体、子育て支援拠点「いっぽサテライト」に協力を得ながら、作成をすすめています。



▲長津田地区子育て支援連絡会の様子



▲子育て中の親、小学生、中学生へのアンケート

○子育て世帯へのニーズ調査を目的として、長津田ってどんなまち？実行委員会（通称：「長どん」）を、こども・子育て部会に紐づいて立上げ、アンケート調査を行いました。

第3章 区域計画

1 区域計画の推進について

(1) 区域計画とは

区域計画は、地区別計画と連携して、各地区が共通で抱える課題の解決や地区の先駆的な取組事例の拡充を目指します。

区域計画 重点項目とその取組内容

重点項目 A 地区別計画を支える取組

各地区共通の課題に対する区・区社協・地域ケアプラザの取組を掲載しています。

A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

地域活動の担い手の確保・育成のため、関係機関と連携した講座や研修、交流会等を通じて、ボランティアの交流や地域活動につながるコーディネートが進められるよう、必要な支援等に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1

A-2 地域活動団体の運営支援

地域活動の立上げや運営にあたって必要な支援制度や好事例等について情報提供を行うとともに、地域活動団体の交流を促進し、団体間のネットワークの構築・強化に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり

地域で身近につながる機会・場づくりのため、地域活動が継続的に行われるよう支援するとともに、活動・交流の場としての地域資源の発掘等に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

A-4 地域活動の情報伝達の工夫

地域活動に関する情報を効果的に広く届けられるよう、情報伝達手法の工夫について学ぶことのできる機会を設けるとともに、区・区社協・地域ケアプラザのほか、関係機関や企業等の様々な広報媒体を活用した情報発信を進めるなど支援をします。

▶ 関連: 推進の視点 1・2・3

A-5 地域における見守り体制の充実

身近な地域で住民同士の顔の見える関係づくりが進められるよう、日頃の地域活動や講座等を通じた見守り意識の醸成を進めます。また、地域と商店等の事業者が連携して、見守りの体制が充実するよう、取組を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1・2・3

A-6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援

地域活動を進める上で抱える課題の解決に向けて、社会福祉法人やNPO法人等の地域の事業者と連携・協働して、地域活動団体を支援します。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

重点項目 B 区域全体での取組

区域で取り組むべき課題に対する区・区社協・地域ケアプラザの取組を掲載しています。

B-1 データを活用した 施策推進



客観的なデータ等を活用した地域アセスメントを進め、地域とともに課題共有を行いながら、必要な施策や取組の検討、実施につなげていきます。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-2 課題解決に取り組む 推進体制づくり



専門機関が地域活動団体と連携し、区域の課題の解決に取り組むことができるよう、専門機関が参加する会議や地域活動団体の研修等の機会を活用し、ネットワーク強化に向けた取組を実施します。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-3 様々な背景を越えた 住民相互理解の風土づくり



疾病や障害など様々な背景を越えて、地域住民がお互いを尊重し支え合えるよう、多様性の理解を深めるための取組や、当事者及びその家族同士の交流に係る取組への支援を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-4 身近な地域で 支援が届く仕組みづくり



支援を必要とする人が適切な支援につながるよう、支援機関の役割・機能を周知するとともに、必要な時に支援機関につながり、相談等ができる機会を得られるよう、仕組みづくりや取組を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1・2

B-5 多様な主体と連携・ 協働した施策展開



区域の課題解決に向けて、企業や大学等と連携・協働することにより、それぞれの強みを生かしながら、区域の課題やニーズに対する取組を進めていきます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

推進の視点 についてくわしい
ことは、4ページにのっています。

ちろくちゃん

誰もが安心して、自分らしく健やかに
暮らせる「よこはま」をみんなで
つくるため、まちの中を歩いて、
人々を見守っています。

横浜地域福祉保障計画の
キャラクター



第4期の区域計画は、「各地区共通の課題解決のための重点項目（重点項目 A）」と「区域の課題解決のための重点項目（重点項目 B）」の大きく2つの項目で構成しています。従来の地区別取組だけでは表面化しない個別課題の把握や解決に向けた取組を進めるとともに、重層的な地域課題を解決する仕組みづくりを引き続き進めていきます。

2 各重点項目の振返り



重点項目A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

- 地域活動に携わる人材の「確保」「育成」を目的として、「みどり『ひと・まち』スクール」を実施。令和7年3月には10周年を記念するイベントを開催した。
- スマートフォンを使って実践的に動画編集の仕方とYouTubeの投稿方法を学ぶ地域デビュー講座「第5弾プロから学ぶ めざせYouTuber!!」を開催した。
- 地域ケアプラザで「コーヒーボランティアで地域デビュー」という講座を開催し、ボランティアを育成した。その後、ボランティアと話し合いをし、毎月1回多世代カフェのスタートに至った。
- 障害(視覚障害・身体障害・知的障害・精神障害・難病患者等)のある方の外出に付き添うガイドボランティアの交流会を開催し、活動者間の情報交換を行った。
- 地域ケアプラザで開催したボランティア交流会にボランティア、関係機関が参加し、活動報告や意見交換を行った。

重点項目A-2 地域活動団体の運営支援

重点項目A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり



- 外国籍の方との交流の場として、「タイ料理体験」をみどり国際交流ラウンジと連携して開催した。
- LINEなどのSNSの活用や、広報誌やチラシ、イベントカレンダーなどを通じて、地域活動の周知を支援した。
- 区域全体の子育て支援連絡会に加えて、緑区地域子育て支援拠点いっぽと連携して、区内7地区で地区別子育て支援連絡会を開催。支援者同士の顔の見える関係づくり、活動団体の取組状況の共有ができた。
- 地域課題チャレンジ提案事業(※)採択団体を中心に交流会を開催し、グループワークを通じて団体間の活発な交流と情報交換を行った。
(※)地域活動チャレンジ提案事業:地域が抱える様々な課題を解決するために、市民活動団体等が主体的に行う事業について支援する事業



重点項目A-4 地域活動の情報伝達の工夫

- スマホ講座などの各種講座を実施し、情報の受発信がデジタルでも可能となるよう支援した。
- 地域活動の情報を集約し、(施設の)広報紙やブログ、SNS などの媒体に掲載し、地域の情報を様々な方法で周知した。
- 店舗内で開催した福祉相談会などの機会に、制度の情報だけでなく、地域に関する情報の紹介を行った。
- 地域情報を掲載した(施設の)広報紙を、商店街連合会と連携して、各商店に掲示してもらうことで、多くの方に情報を伝えることができた。
- 民生委員・児童委員や保健活動推進員の地域での活動を広報紙で紹介した。



重点項目A-5 地域の見守り体制の充実

- 昨年度に引き続き、見守りをテーマに地域ケア会議を開催。移動販売の企業や介護予防・生活支援サービス補助事業(サービス B)の団体等が参加し、意見交換を行うことで見守りの意識を醸成した。
- 民生委員・児童委員とケアマネージャーの交流会を実施。それぞれの役割を理解するとともに、関係性の構築ができた。
- 地域での移動販売の導入支援を行うとともに、移動販売の機会が「つながりづくり」や「ゆるやかな見守り」になるよう支援を行った。区内 27 か所で実施(令和7年3月末時点)。
- 十日市場ヒルタウンにおいて、高齢者用市営住宅等援助員派遣事業による地域の見守りを実施した。



重点項目 A—6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援
重点項目 B—5 多様な主体と連携・協働した施策展開



A-6 連携による支援



B-5 協働による推進

- NPO 法人と連携し、ICT 講座やスマホ・サポーター養成講座を開催した。
- ボランティア講座を開催する際に、施設や専門機関、当事者グループなどに講師を依頼し、専門性やノウハウを生かした講座を開催した。
- 地域での見守りの協力事業者となっただけのよう様々な企業や団体に働きかけを行った。
- スーパーと連携して、店舗内で福祉相談会を開催し、来店者からの相談対応や必要な情報提供を行った。
- 自動車学校と連携して、自動車学校を会場に体操教室を実施した。
- アンケートで地域住民のニーズを把握したうえで、スーパーと連携して移動販売の実施(拡大)に向けた調整を行った。

重点項目B—1 データを活用した施策展開



B-1 データ活用

- 食支援事業について、令和5年度の実績を数値化し、関連の会議や地域での打合せ等でニーズや相談の傾向などについて報告した。
- 移動販売の導入を検討している地区において、自治会ごとの高齢化率の推移等のデータを提示して、地区の状況について共有した。
- サロンや老人会の活動、移動販売の情報などをマップに落として可視化したことで、地域ケアプラザにおいて利用者への案内を円滑に進められるようになった。
- 地域が実施する住民アンケートの支援を行い、住民の生活支援、医療、交流などに関するニーズを把握した。
- 地区別の子育て支援連絡会を開催し、ケアプラザ単位での地域における出生数等のデータを活用して、地区の状況を参加者と共有した。



重点項目B-2 課題解決に取り組む推進体制づくり

- 在宅ケアみどりネットワークによる医療・介護連携を目的とした ACP(※)人材育成研修で事例検討を行った。また、医療機関と介護事業者、地域包括支援センター等との意見交換会を行った。
(※)ACP:将来の医療及びケアについて、本人を主体に、その家族や医療・ケアチーム等と繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援する取組
- 区レベルセーフティネット会議を開催し、ひきこもり支援をテーマとした講義と事例検討を行った。また、生活困窮制度の周知及び関係機関との連携の強化を図った。(年2回、計32機関が参加)
- 食生活等改善推進員(ヘルスメイト)と連携して、「夏休みこどもプログラム」や「子育てまちともひろば」で食育講座を開催した。



重点項目 B-3 様々な背景を超えた住民相互理解の風土づくり

- 区民を対象に、当事者やその家族、支援者を講師に招いて、障害理解のための講座を開催した。また、障害福祉事業所の個性的な唯一無二の魅力であふれる自主製品の魅力を多くの人に知っていただくために、「ミドリビト～緑区障害福祉事業所のご紹介～」(令和3年度発行)の動画版を配信した。
- 地域のボランティアや保護者、PTA 役員の協力を得ながら、小学校での福祉教育を実施した。
- 認知症についての理解を深めていただけるよう、小学生や民生委員・児童委員、認知症カフェのスタッフなど様々な対象に向けて認知症サポーター研修を実施した。また、認知症に関する区民むけのパネル展を、区役所、各地域包括支援センター、図書館を巡回する形で実施した。
- チームオレンジ(※)の活動として、映画上映会や勉強会(マスコットづくり)などを通して認知症に対する理解を深めるための取組を実施した。
(※)チームオレンジ:地域で把握した認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーター等の支援をつなぐ仕組み
- 区内の認知症カフェを取材し、認知症カフェマップを作成し、区役所や各地域包括支援センター、イベント等で配布した。
- 国際交流ラウンジと協力して、外国籍の方や高齢者、子どもにも伝えやすいやさしい日本語セミナーを開催した。また、ケアプラザにおいて外国籍の方と作成した多文化共生かるた「防災編」を展示した。

重点項目B-4 身近な地域で支援が届く仕組みづくり



- 地域子育て支援拠点いっぽサテライトを長津田地区へ新規開設し、気軽に立ち寄れるよう活動の様子を広報特集号で掲載した。
- 横浜市子育て応援アプリ「パマトコ」を活用し、子育て世帯へ広く情報を発信した。
- 生活困窮者の早期把握や地域でのネットワークづくりにつながるよう、小学校と協力してキッズマネー教室を開催した。
- 外国籍の方でもわかりやすいように、転入者へウェルカムセットを配布。また、日本の小学校に入学する児童と保護者を支援するプログラムを紹介した。
- 認知症や生活困窮者自立支援制度の周知、子育て情報について、広報よこはま区版への掲載や区内店舗や図書館等でチラシ配架を行った。
- 区役所や市営バスのデジタルサイネージを活用したエンディングノートの普及啓発や、障害福祉事務所の活動を紹介した冊子「ミドリビト」をモチーフにラッピングされた市営バスを運行し、障害のある方への理解を促進する取組を行った。
- 「健康チェックの日」を予約不要として開催したところ、これまでより多くの参加者が得られ、身近なところでの健康づくりの大切さについて周知を図った。

プランの周知に関する取組

- 広報よこはま緑区版の特集を見て、地域ケアプラザに来所した方に、プラン啓発グッズ(ミドリインステッカー)をプレゼントした。また、区民アンケートを郵送する際に、紙製ファイルを同封した。



ステッカー



紙製ファイル

- みどりのわ・ささえ愛プラン講演会で、“地域ではぐくむ あたたかいまち”をテーマに、講演と地域の活動報告を含めたパネルディスカッションを開催した。
※詳細は、P38 のみどりのわ・ささえ愛プラン講演会をご覧ください。

3 参考指標について

「第4期みどりのわ・ささえ愛プラン」では、それぞれの重点項目の進捗状況をはかるために指標を設定し、年度ごとの振り返りの際に活用しています。

重点項目 A 地区別計画を支える取組

重点項目 A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

〈参考指標〉

ボランティア活動登録数 827 件（令和7年3月末）

重点項目 A-2 地域活動団体の運営支援

〈参考指標〉

「活動・交流の場」の新規開設支援件数 36 件（令和7年3月末）

事例の周知…緑区社会福祉大会の第2部として、「地域ではぐくむ あたたかいまち」をテーマに講演とパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションには、区内の活動者に参加していただき、活動を始めたきっかけや仲間を増やすための工夫についてお話いただき、参加者と共有することができました。

重点項目 A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり

〈参考指標〉

住民主体の活動・交流の場の把握数 679 件（令和7年3月末）

重点項目 A-4 地域活動の情報伝達の工夫

〈参考指標〉

地域情報発信の仕組みづくり…区内の各施設で、SNS を活用した地域情報の発信・企業と連携し、区民が多く訪れる場所へのチラシ配架などを工夫して情報発信を行っています。

区内で実施している移動販売の案内をホームページに掲載したほか、実施箇所を記載した「横浜市緑区移動販売一覧マップ」を作成しました。

重点項目 A-5 地域における見守り体制の充実

〈参考指標〉

見守りに関する地域住民との会議開催回数 315 件（令和7年3月末）

重点項目 A-6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援

〈参考指標〉

多様な主体と連携した地域活動支援件数 108 件（令和7年3月末）

重点項目 B 区域全体での取組

重点項目 B-1 データを活用した施策推進

〈参考指標〉

データ活用会議実施回数 156 件（令和7年3月末）

重点項目 B-2 課題解決に取り組む推進体制づくり

〈参考指標〉

ネットワーク構築に資する会議等開催回数 120 件（令和7年3月末）

重点項目 B-3 様々な背景を越えた住民相互理解の風土づくり

〈参考指標〉

多様性理解・啓発の取組実施回数 125 件（令和7年3月末）

重点項目 B-4 身近な地域で支援が届く仕組みづくり

〈参考指標〉

成年後見制度に係る相談支援件数 136 件（令和7年3月末）

生活困窮者自立支援に係る相談しやすい体制や風土づくりの取組…支援機関が集まる区レベルのセーフティネット会議を2回開催（第1回 68 名、第2回 54 名出席）し、生活困窮者自立支援制度の周知及び関係機関同士の継続的な連携の強化を図りました。

また、成年後見制度の理解促進のため、講座や個別相談会を開催しました。

重点項目 B-5 多様な主体と連携・協働した施策展開

〈参考指標〉

事業展開事例…子どものまちづくりイベントにおいて、村田製作所、横浜銀行、フジッコ NEW デリカ、東洋英和女学院大学、緑警察署に、ブース出展等の協力をいただきました。

また、区内のものづくり企業について、広報よこはま2月号で特集し、地域産業や脱炭素への取組事例等を掲載しました。

区内施設においても、自主事業や地域活動支援を企業や大学等と連携・協働し、施策を展開しました。



4 みどりのわ・ささえ愛プラン講演会（第43回緑区社会福祉大会 第2部）

令和7年3月5日（水）、みどりのわ・ささえ愛プラン講演会を緑公会堂にて開催しました。今年も、緑区社会福祉大会の第2部として開催し、日頃から地域で福祉・保健などの地域活動に携わっている方々を中心に、268名の皆様にご参加いただきました。

当日の様子

当日は「地域ではぐくむ あたたかいまち」をテーマに、講演とパネルディスカッションの2部構成で行いました。

①講演

講師には田園調布学園大学教授で、みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会座長の村井祐一先生をお招きし、お話をいただきました。先生のお話の中にありました、ポイントをご紹介します！

■地域ではぐくむ あたたかいまち ～地区別計画を活かして～

○緑区で行ったアンケートの結果を見ると、「あいさつをする程度で、近所づきあいはない」との回答が多く、地域におけるコミュニティの希薄化が、緑区でも進んでいることがわかる。

年齢別にみると、65才以上の世代では、近所づきあいが多くなる傾向にあることがわかった。

また、「災害時に備えて、顔の見える関係作りは大切だと思うか？」という問いに対しては、8～9割の人が「必要だと思う」と回答している。

○隣近所の助け合いのために大切なのは、「あいさつ」や「声かけ」。顔の見える関係づくりの第一歩は、「あいさつ」からだと考えている。また、近所での日頃からの付き合いや自治会活動への参加なども重要。

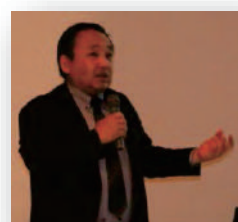
○みどりのわ・ささえ愛プランは、「誰もが安心して暮らせる緑区をめざして」という基本理念を掲げており、それを実現するため、重点項目を設定している（詳細は、P2を参照）が、今回のテーマに関連し、共通していることは「地域でのつながりが重要である」ということ。

○具体的には、小地域を基盤とした交流や見守り活動などによるつながりづくりが大切になる。

○このつながりづくりなどを始めとした、福祉保健のまちづくりについて、各地区の実情や特徴に合わせて策定されているのが「みどりのわ・ささえ愛プラン」の地区別計画である。

○この計画は、住民の皆さんの将来に向けた目標や方向性が反映されたものであるので、ぜひ、「自分たちによる、自分たちのための計画」であると思っていただきたい。

○「計画をつくる」ということは、地域みんなの合意を得ながら、目標を立てて、みんなで推進していこうと1つになること。「地区別計画」をぜひ、「ツール」として活用していただき、「あたたかいまち」づくりを進めていただきたい。



▲村井祐一先生

②パネルディスカッション

コーディネーターは、引き続き、村井先生にお願いし、パネリストには、区内で活動されている、東本郷地区の名取隆司さん、高林綾子さん、白山地区の森忠民さん、小坂隆子さんをお招きしました。活動されている方ならではの貴重なお話を聞くことができました。

★パネリストの皆さんへの質問

- Q1：活動が、今も継続し、広がっている秘密や秘訣は？
Q2：活動をしていくうえで、大切にしていることは？
Q3：今後、今の活動をどのように展開していきたいか？
Q4：これから活動を始めようとしている人へのメッセージ



▲左から、東本郷地区 名取さん、高林さん、白山地区 森さん、小坂さん

東本郷地区 「朝ごはんを食べる会」 名取さん、高林さん

- A1：東本郷地区の地区別計画を進めていくために、連合自治会、地区社協を中心に検討した結果、3つの「専門委員会」を設けることとなった。その一つが、「こども子育て支援委員会」であり、「朝ごはんを食べる会」の中心になっている。活動を広げていくには、色々な立場の人が意見を交わし、連携し合うことが大事。地区別計画がきっかけとなり、賛同者が増え、地域団体の協力につながっている。この活動を一過性のものとせず、継続的な活動にしていきたい。
- A2：参加する人も、利用する人もお互い楽しめるようにすることが大切だと思う。
また、こどもたちには、自立した人になってもらいたいと思っているので、きちんとあいさつをするなど、基本的な生活習慣を身につけられるように伝えている。こどもたちも地域に目を向けてくれるようになり、それによって学校の先生や親も巻き込むことができ、結果的に、こどもが学校・地域・家族をつなげてくれていると思う。
- A3：毎月1回のホームページ更新と3カ月に1回のニュース（広報紙）発行は欠かさず実施していきたい。その中で、多くの人に活動のことを知ってもらうことが大切だと考えている。この取組は民生委員が中心になって引っ張ってくれているので、連合・地区社協としてどのように支援するかを、引き続き検討したい。
- A4：ボランティアをやりたいという方は、ぜひ地区社協や地域ケアプラザに相談してほしい。朝ごはん食べる会についても、見学したいという方は気軽に声をかけてください！

白山地区 「見守りのネットワークづくり」 森さん、小坂さん

- A1：白山地区では、毎月、地区別計画推進策定委員会を実施しており、単位自治会・所属団体等同士で情報交換を行っている。この場での情報交換を通じて、課題解決が行えている。地区別計画の仕組みを活用しながら、地域の取組を進めることができていると思う。
また、活動をしている人自身が楽しむことが大切だと思う。楽しんでいいる気持ちが伝わることで、参加者も参加してよかったと思ってもらえていると思っている。
- A2：農業体験について、最初は、引きこもりがちになっている高齢者をターゲットにしていたが、口コミで家族に広がり、こどもたちも参加してくれた。シナジー効果は大切だと思う。
また、支援する側にとっても負担にならないように工夫することは大切だと思う。やるのであれば、「楽しもう！」という気持ちが原点にある。
- A3：白山地区で実施したアンケートによると、30～40歳代はこども向けのイベントを実施してほしいとの声が多かった。また50歳代からは、いずれボランティアをやりたいという声が聞かれ、高齢の世代からは健康で長生きしたいとの声があった。これらを踏まえ、推進策定委員会で企画実施、情報発信をしていきたい。
- A4：自分たちもちょっとした「きっかけ」でここにいる。最初は見学だけでもよいので、地域活動を見に来てほしい。まずは、私たちがバックにいるので、一步を踏み出してほしい。

緑区内の地域ケアプラザ

誰もが住み慣れたまちで、安心して暮らせる地域をつかっていくための拠点として、地域の福祉・保健活動を支援し、福祉・保健サービス等を身近な場所で総合的に提供する施設です。

東本郷地域ケアプラザ

〒226-0002 東本郷 5-5-6
電話 045-471-0661 / FAX 045-471-0678



JR 鴨居駅から
バスで
「東本郷地域
ケアプラザ前」「東
本郷町」「泉谷寺
団地前」バス停
下車

鴨居地域ケアプラザ

〒226-0003 鴨居 5-29-8
電話 045-930-1122 / FAX 045-931-2203



JR 鴨居駅から
・バスで「鴨居
町」バス停下
車
・徒歩で約 10
分

中山地域ケアプラザ

〒226-0019 中山 2-1-1 (ハーモニーみどり内)
電話 045-935-5694 / FAX 045-935-5695



中山駅 (JR・市
営地下鉄) から
徒歩 7 分

山下地域ケアプラザ

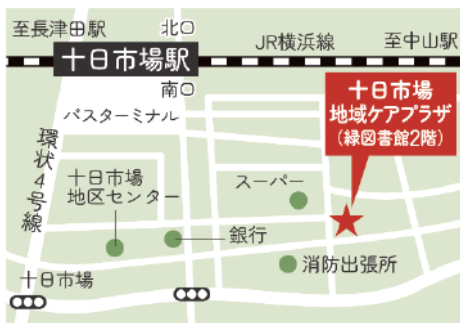
〒226-0021 北八朔町 218-13
電話 045-931-6275 / FAX 045-935-3883



・中山駅 (JR・
市営地下鉄)
からバスで
「寒谷戸」バ
ス下車
・市営地下鉄
川和町駅から
徒歩 20 分

十日市場地域ケアプラザ

〒226-0025 十日市場町 825-1
電話 045-985-6321 / FAX 045-985-6325



JR 十日市場駅
から徒歩 3 分

霧が丘地域ケアプラザ

〒226-0016 霧が丘 3-23
電話 045-920-0666 / FAX 045-922-6611



JR 十日市場駅
からバスで
「中丸入口」
「萱場公園入
口」バス停下
車

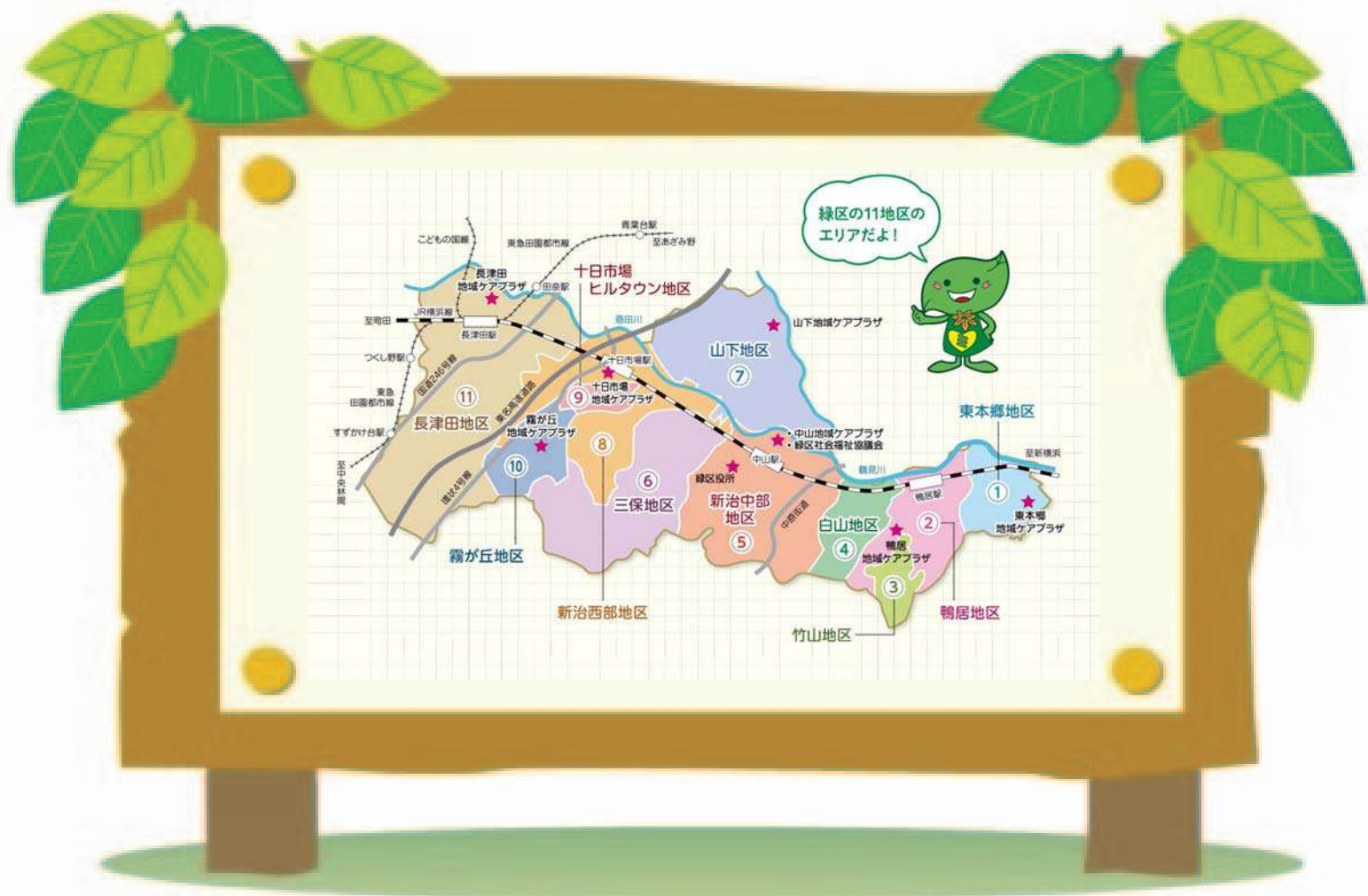
長津田地域ケアプラザ

〒115-0027 長津田 2-11-2
電話 045-981-7755 / FAX 045-981-7575



長津田駅 (JR・
東急) 北口から
徒歩 5 分





プランの詳細は、ホームページをご覧ください。

みどりのわ・ささえ愛プラン

検索



第4期 緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」

令和6年度 推進状況報告書

<2025（令和7）年6月発行>



～編集・発行～

横浜市緑区役所 福祉保健課 事業企画担当

〒226-0013 横浜市緑区寺山町 118

電話 045-930-2304 FAX 045-930-2355

電子メール md-fukuhoplan@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会

〒226-0019 横浜市緑区中山 2-1-1（ハーモニーみどり内）

電話 045-931-2478 FAX 045-934-4355

電子メール midori00@yokohamashakyo.jp